



## 第四回定例会

### 2020年度一般会計補正予算第6号に賛成

#### 主な内容

- ①第四中学校用地取得費 2億5千万円余
- ②グリーンホール・たづくり・せんがわ劇場のコロナによる減収への補填として 6千万円余
- ③高齢者・障がい者施設のPCR検査補助金 1億1700万円余  
高齢者インフルエンザ定期予防接種費 1億2300万円余
- ④生活保護費受給者の増加や医療費増加への対応 1億2400万円
- ⑤逆流防止用フラップゲートの設置費用 1500万円  
シミュレーションで逆流を確認した調布幹線の水路出口に、逆流を防止するフラップゲートを一時的に設置
- ⑥道路維持管理費 4千万円・樹木管理費 2400万円余
- ⑦マイナンバーカード推進事業費 7000万円余  
カード未取得の市民に対するオンライン申請の通知が始まる予定。カード交付数増加への対応として窓口を増設するための費用。上程時質疑で取り上げ、情報管理とコロナ対策の両面から安全の確保を求めました。

#### 建設委員会

##### ○公営企業会計のわかりやすい説明を

全国的にも課題の下水道管の老朽化対策や台風などによる水害対策など、下水道事業には毎年大きな予算が割かれています！一方、今後は少子化の影響で納税者も減少するため自治体の財政への圧迫が懸念されます。下水道事業では財政運営の健全性を保つため、今年度から会計システムを公営企業会計に移行しています。財政運営の現状とともに、雨水分に一般会計、下水分に下水道会計を充てる下水道事業会計の仕組みが市民に伝わりやすい資料の提示を求めました。



ボーリング調査のため閉鎖中のなかよし公園

「振動や騒音が酷くて家にいられない」住民の涙ながらの訴えを耳にしたのは9月26日、ネクスコ東日本によるオープンハウス会場の若葉小だ。さっそく29日、現地視察へ。外壁の亀裂などを確認後、騒音や振動被害を訴える方のお宅に入れていただいた。入るなりトントン…と、鈍い振動音が壁から聞こえてくると、耳の奥に圧迫感が生じ、じきに動悸と息苦しさを覚えた。陥没が起きたのは3週間後、まさに視察した地域の通学路。「まさか」と「やっぱり」の思いが交錯しつつ現場に向かい、陥没を見た時には思わず身震いした。その後、巨大な空洞が2つも確認された。東京外環道トンネル工事は地上にはほぼ影響がないことを前提とした「大深度法」に基づき、住民合意も無く進められてきた。しかし、被害住民連絡会のアンケート調査では構造物被害58件、体感的被害102件。不安からの体調不良や低周波過敏症など工事に起因するとの実証が難しい事例もある。すべての被害が補償され、安全安心な暮らしを取り戻せるまで、議会、行政ともに被害者に寄り添う姿勢を貫くべきだ。

## 各条例改正に賛成

#### 主な内容

- ①投票管理者と投票立会人の報酬額を改定
- ②市職員および市議会議員の期末手当支給月数を0.1月引き下げ



### 生活者ネットワークが提案！ 女性差別撤廃条約選択議定書の 批准に向けた環境整備を求める意見書 賛成多数で可決！

女性差別撤廃条約は1979年に国連で採択、日本は85年に批准した。条約の実効性を高めるため、個人通報制度と調査制度を定めた女性差別撤廃条約選択議定書が99年に採択されたが、日本は批准していない。

国内でも男女平等に向けた法整備は少しずつ進んできたが、なお、セクハラ、DV、性暴力、賃金格差や非正規雇用などの問題、大学入試での差別的扱いなど多くの問題が残されており、今なお、司法の場においてさえ不平等な慣例に苦しむ女性は数知れない。

選択議定書に日本が批准することで、不平等をなくするための効力が強まることが期待される。そこで、課題となっている日本の司法制度や立法政策との関連での問題および個人情報を受け入れる実施体制等の課題を解決し選択議定書の批准に向けた環境を整備するよう求める意見書を提案した。公明党、チャレンジ調布21、共産党、次世代調布、社民党が賛成、自民党と日本維新の会が反対、賛成多数で可決した。

#### 飛行場問題等対策特別委員会

東京消防庁が新しい航空機（ヘリコプター）を導入することになりました。災害訓練や消防業務に関する目的で調布飛行場を使用することになるため、協議のための特別委員会が開催されました。

委員会では航空機の重量や騒音について、安全性や市民生活への影響の観点から細かく協議しました。かねてから市は、飛行場の使用を可能な限り限定的にするため厳しい基準を定めていますが、今後も厳しく審査、協議していきます。

### 被害住民の安全と安心を！

「振動や騒音が酷くて家にいられない」住民の涙ながらの訴えを耳にしたのは9月26日、ネクスコ東日本によるオープンハウス会場の若葉小だ。さっそく29日、現地視察へ。外壁の亀裂などを確認後、騒音や振動被害を訴える方のお宅に入れていただいた。入るなりトントン…と、鈍い振動音が壁から聞こえてくると、耳の奥に圧迫感が生じ、じきに動悸と息苦しさを覚えた。陥没が起きたのは3週間後、まさに視察した地域の通学路。「まさか」と「やっぱり」の思いが交錯しつつ現場に向かい、陥没を見た時には思わず身震いした。その後、巨大な空洞が2つも確認された。東京外環道トンネル工事は地上にはほぼ影響がないことを前提とした「大深度法」に基づき、住民合意も無く進められてきた。しかし、被害住民連絡会のアンケート調査では構造物被害58件、体感的被害102件。不安からの体調不良や低周波過敏症など工事に起因するとの実証が難しい事例もある。すべての被害が補償され、安全安心な暮らしを取り戻せるまで、議会、行政ともに被害者に寄り添う姿勢を貫くべきだ。